

協働契約 事業実施結果報告書

1 提案概要

受託者及び代表者氏名	NPO法人あまがさき環境オープンカレッジ 理事長 大原 一憲
事業名	あまがさき環境オープンカレッジ実行委員会事務局業務等委託

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、D（まったくできなかった）
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3 総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	A	B
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	A	A
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	A	A
(2) 予定外のことにについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	A	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	B
その他（任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1) 事業に興味深く取り組むことができたか。	B	B
(2) 事業への取り組みを通じて達成感を感じられたか。	A	A
(3) 事業を通じて新しい展開やつながりをつくることができたか。	A	A
(4) 事業を実施するにあたり事務や準備を適切に行うことで、事業効果を発揮することができたか。また、互いに協力することができたか。	A	B

※事業：実行委員会の支援事業等

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

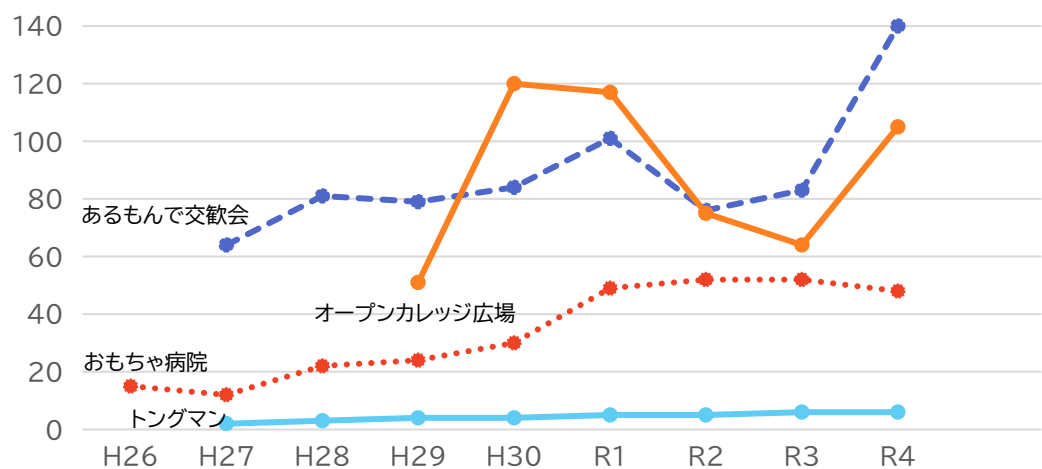
項目	内容																																																		
1 評価指標	事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、啓発がより進んだか。																																																		
測定方法	あまがさき環境オープンカレッジ主催活動・連携活動参加者数の増減により測定																																																		
結果	参加者数の推移 <table border="1"><caption>参加者数の推移 (推定値)</caption><thead><tr><th>年度</th><th>合計</th><th>主催活動</th><th>連携活動</th><th>エコあまフェスタ</th></tr></thead><tbody><tr><td>H26</td><td>3,000</td><td>1,500</td><td>1,500</td><td>500</td></tr><tr><td>H27</td><td>9,000</td><td>6,000</td><td>2,500</td><td>500</td></tr><tr><td>H28</td><td>4,500</td><td>2,000</td><td>2,000</td><td>500</td></tr><tr><td>H29</td><td>5,500</td><td>2,500</td><td>2,500</td><td>500</td></tr><tr><td>H30</td><td>11,000</td><td>6,000</td><td>2,000</td><td>3,000</td></tr><tr><td>R1</td><td>11,500</td><td>5,500</td><td>2,500</td><td>3,500</td></tr><tr><td>R2</td><td>2,000</td><td>2,000</td><td>500</td><td>500</td></tr><tr><td>R3</td><td>5,000</td><td>3,000</td><td>1,500</td><td>500</td></tr><tr><td>R4</td><td>12,500</td><td>8,000</td><td>500</td><td>4,000</td></tr></tbody></table> ※H28以降、市民まつり出店による参加者のカウント法について作品作りを体験した人に限定したため、参加者数が減少している。 ※H30、R1、R4は参加者3,000人の水辺まつりから連携活動申請があったため、連携活動の参加者数が増加している。 ※R2～3は新型コロナウイルス感染症の流行のため活動数が激減し、それに伴い参加者数も減少している。 ・令和4年度は新型コロナウイルス感染症によるイベントの中止や活動拠点の閉鎖がなかったため、活動数、参加者数ともにコロナ禍前と同水準まで回復している。 ・令和4年度の「エコあまフェスタ」は中央北生涯学習プラザで3年ぶりの実地開催を行った。当日出展されたのは32ブース、参加者は580人であった。事務局ではエコあまフェスタ実施にあたり、次のとおり支援を行った。 ・市民が安心して参加できるよう、入場者数を管理しやすい場所に会場を移した。また、当日消毒・検温が済んだ参加者にはリストバンドを配布、リストバンドを装着していない参加者には受付で消毒・検温をするよう誘導するルールを設定するなど安全管理に努めた。イベント参加にあたり心理的なハードルとなる要因を取り除くことで市民が学ぶ機会を逃さないようにし、より多くの市民に啓発できるよう努めた。 ・当日の様子を写真、映像で記録に残すとともに、あまがさき環境オープンカレッジ事業をより広く周知し環境啓発につなげるため、動画をyoutubeに投稿しPRした。 (参考) ・youtube再生数(令和5年6月12日時点) 「エコあまフェスタ2022」402回	年度	合計	主催活動	連携活動	エコあまフェスタ	H26	3,000	1,500	1,500	500	H27	9,000	6,000	2,500	500	H28	4,500	2,000	2,000	500	H29	5,500	2,500	2,500	500	H30	11,000	6,000	2,000	3,000	R1	11,500	5,500	2,500	3,500	R2	2,000	2,000	500	500	R3	5,000	3,000	1,500	500	R4	12,500	8,000	500	4,000
年度	合計	主催活動	連携活動	エコあまフェスタ																																															
H26	3,000	1,500	1,500	500																																															
H27	9,000	6,000	2,500	500																																															
H28	4,500	2,000	2,000	500																																															
H29	5,500	2,500	2,500	500																																															
H30	11,000	6,000	2,000	3,000																																															
R1	11,500	5,500	2,500	3,500																																															
R2	2,000	2,000	500	500																																															
R3	5,000	3,000	1,500	500																																															
R4	12,500	8,000	500	4,000																																															

「カムイの伝説 第1幕～3幕」計688回

・youtubeチャンネル「あまがさき環境オープンカレッジ」：登録者数32人
これらの支援により、ポストコロナの時期でありながら580人の参加者を獲得することができた。

また、普段活動している拠点とは違う場所で実施したことにより、居住地や移動範囲が理由でこれまでリーチできていなかった市民にも参加してもらうことができ、より広い範囲に啓発することができた。

通年、一般向け活動の各回の平均参加者数



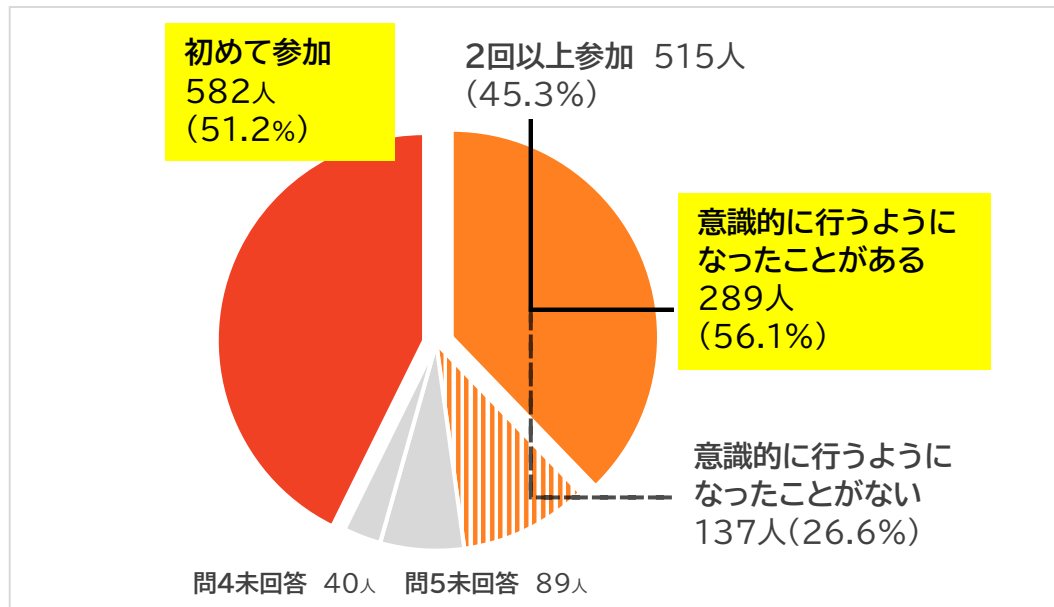
- ・オープンカレッジ広場、あるもんで交歓会、おもちゃ病院など、通年で広く一般に向けて行っている活動については、各回の平均参加者数はおおむね増加の傾向にあり、地域での環境活動の場、市民同士の交流の場として定着していることがわかる。
- ・おもちゃ病院はインターネットで検索した際、上位に表示されることが多く、新規参加者が多い。市内はもちろん周辺地域の住民が参加することも多く、より広い範囲への啓発につながっている。
- ・オープンカレッジ広場、あるもんで交歓会は常連の参加者が増えている。同じ活動に複数回参加することにより同じ内容を繰り返し啓発することができ、リユース、リデュースについてより印象的に伝えることができるなど啓発効果が高まると同時に、参加を通じて参加者同士の交流が生まれ、環境をきっかけとした市民の居場所づくりにも貢献している。また、事務局の働きかけにより、リユース品の提供等を通じて福祉局やこども青少年局とも連携が進んでいる。

2	評価指標	事務局があまがさき環境オープンカレッジ実行委員会の支援をすることで、市民に環境保全を啓発し、行動変容を促すことができたか。																																																																																																												
	測定方法	主催活動アンケート問6について、環境に関連する6項目に「◎」「○」と答えた人の割合の増減により測定。																																																																																																												
	結果	アンケートについて、令和4年4月1日から令和5年3月31日までを集計。総回答者数は1,137人。 ■アンケート問6「参加して感じた気持ちを◎、○、△、×で答えてください。」について 問6から、環境保全活動に関連する6項目をぬき出し、「◎」もしくは「○」と答えた人数を調べる。 環境にやさしい暮らしへのヒントが見つかった <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>159</td> <td>14.0%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>505</td> <td>44.4%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>52</td> <td>4.6%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>10</td> <td>0.9%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>411</td> <td>36.1%</td> </tr> </tbody> </table> 環境にやさしい暮らしに気を付けようと思った <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>242</td> <td>21.3%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>482</td> <td>42.4%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>32</td> <td>2.8%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>6</td> <td>0.5%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>375</td> <td>33.0%</td> </tr> </tbody> </table> 環境のために自分にできることは何かを考えた <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>164</td> <td>14.4%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>508</td> <td>44.7%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>57</td> <td>5.0%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>13</td> <td>1.1%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>395</td> <td>34.7%</td> </tr> </tbody> </table> 環境のことについてもっと調べてみようと思った <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>101</td> <td>8.9%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>403</td> <td>35.4%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>119</td> <td>10.5%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>24</td> <td>2.1%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>490</td> <td>43.1%</td> </tr> </tbody> </table> これから実際にやってみたいことがみつかった <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>93</td> <td>8.2%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>357</td> <td>31.4%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>151</td> <td>13.3%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>39</td> <td>3.4%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>497</td> <td>43.7%</td> </tr> </tbody> </table> 今日知ったことを人に話してみたいと思った <table border="1"> <thead> <tr> <th>Response</th> <th>Count</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎</td> <td>166</td> <td>14.6%</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>450</td> <td>39.6%</td> </tr> <tr> <td>△</td> <td>77</td> <td>6.8%</td> </tr> <tr> <td>×</td> <td>26</td> <td>2.3%</td> </tr> <tr> <td>未回答</td> <td>418</td> <td>36.8%</td> </tr> </tbody> </table>	Response	Count	Percentage	◎	159	14.0%	○	505	44.4%	△	52	4.6%	×	10	0.9%	未回答	411	36.1%	Response	Count	Percentage	◎	242	21.3%	○	482	42.4%	△	32	2.8%	×	6	0.5%	未回答	375	33.0%	Response	Count	Percentage	◎	164	14.4%	○	508	44.7%	△	57	5.0%	×	13	1.1%	未回答	395	34.7%	Response	Count	Percentage	◎	101	8.9%	○	403	35.4%	△	119	10.5%	×	24	2.1%	未回答	490	43.1%	Response	Count	Percentage	◎	93	8.2%	○	357	31.4%	△	151	13.3%	×	39	3.4%	未回答	497	43.7%	Response	Count	Percentage	◎	166	14.6%	○	450	39.6%	△	77	6.8%	×	26	2.3%	未回答	418	36.8%
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	159	14.0%																																																																																																												
○	505	44.4%																																																																																																												
△	52	4.6%																																																																																																												
×	10	0.9%																																																																																																												
未回答	411	36.1%																																																																																																												
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	242	21.3%																																																																																																												
○	482	42.4%																																																																																																												
△	32	2.8%																																																																																																												
×	6	0.5%																																																																																																												
未回答	375	33.0%																																																																																																												
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	164	14.4%																																																																																																												
○	508	44.7%																																																																																																												
△	57	5.0%																																																																																																												
×	13	1.1%																																																																																																												
未回答	395	34.7%																																																																																																												
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	101	8.9%																																																																																																												
○	403	35.4%																																																																																																												
△	119	10.5%																																																																																																												
×	24	2.1%																																																																																																												
未回答	490	43.1%																																																																																																												
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	93	8.2%																																																																																																												
○	357	31.4%																																																																																																												
△	151	13.3%																																																																																																												
×	39	3.4%																																																																																																												
未回答	497	43.7%																																																																																																												
Response	Count	Percentage																																																																																																												
◎	166	14.6%																																																																																																												
○	450	39.6%																																																																																																												
△	77	6.8%																																																																																																												
×	26	2.3%																																																																																																												
未回答	418	36.8%																																																																																																												

環境保全活動に関連する 6 項目のうち 4 項目は、「◎」もしくは「○」と答えた参加者の数が半数を超えている。いずれも環境問題と自分の生活を結び付けて考え、行動することにつながる内容であるため、あまがさき環境オープンカレッジ主催活動に参加することを通して、市民の環境意識を啓発し、行動変容を促すことができたと捉えられる。

■アンケート問 4「活動への参加は何回目ですか」

アンケート問 5「2 回以上参加した人は以前参加した活動の後に意識的に行うようになったことはありますか。」について



「初めて参加した」と答えた参加者は 582 人/1,137 人と、アンケート回答者の約半数である。また、あまがさき環境オープンカレッジの活動に 2 回以上参加した人への質問では、以前参加した活動後に意識的に行うようになったことが「ある」と回答した人数は 289 人/515 人となっており、半数以上があまがさき環境オープンカレッジ主催活動への参加が行動変容につながったと答えている。

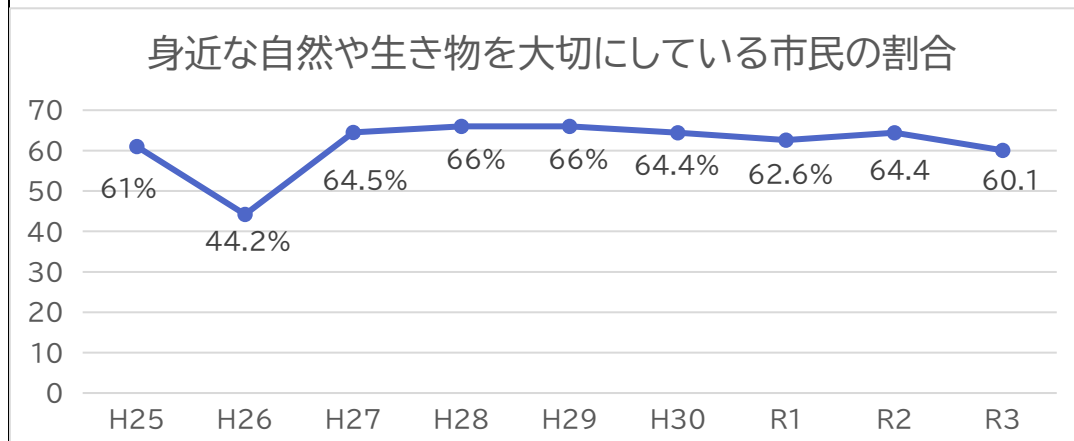
事務局では、あまがさき環境オープンカレッジ環境情報誌の発行、市報への掲載手続き、ポスターの作成、コミュニティ連絡版へのポスター掲示依頼手続き、チラシの作成、配布、Facebook での発信、youtube での動画発信等、多様な媒体での広報により実行委員会の活動を支援し、より広い範囲に向けての周知活動を行った。これにより、これまで環境に関心のなかった層や情報が届きにくかった層にもアプローチすることができ、イベントに参加するという行動変容、並びに、イベントから学んだことを実践するという行動変容につながったものと考えられる。

3	評価指標	市内で活動する環境活動団体や企業、行政等とのネットワークを広げられたか。																																								
	測定方法	これまでの連携団体数と新規連携団体数により測定																																								
	結果	連携団体数の推移 <table><thead><tr><th>年度</th><th>新規</th><th>既存</th><th>合計</th></tr></thead><tbody><tr><td>H26</td><td>79</td><td>21</td><td>100</td></tr><tr><td>H27</td><td>54</td><td>75</td><td>129</td></tr><tr><td>H28</td><td>32</td><td>95</td><td>127</td></tr><tr><td>H29</td><td>38</td><td>91</td><td>129</td></tr><tr><td>H30</td><td>25</td><td>95</td><td>120</td></tr><tr><td>R1</td><td>24</td><td>99</td><td>123</td></tr><tr><td>R2</td><td>13</td><td>49</td><td>62</td></tr><tr><td>R3</td><td>17</td><td>66</td><td>83</td></tr><tr><td>R4</td><td>24</td><td>84</td><td>108</td></tr></tbody></table> ■ 新規 ▨ 既存 これまでの連携団体数は累計 342 団体で、令和 4 年度に新しく連携した団体は 24 団体である。令和 3 年度の新規連携団体数は 17 団体、令和 2 年度の新規連携団体数は 13 団体であった。 ・活動を再開した団体などとも新しく連携したことで新規連携団体数はコロナ禍前の水準に戻っている。 ・これまでに連携した団体には事務局からこまめに連絡や報告を行っており、様々な団体と長期的につながりをもつことができている。 ・エコあまフェスタ、あまがすき通信への掲載、環境活動団体ミーティングでの新規連携が多い。	年度	新規	既存	合計	H26	79	21	100	H27	54	75	129	H28	32	95	127	H29	38	91	129	H30	25	95	120	R1	24	99	123	R2	13	49	62	R3	17	66	83	R4	24	84	108
年度	新規	既存	合計																																							
H26	79	21	100																																							
H27	54	75	129																																							
H28	32	95	127																																							
H29	38	91	129																																							
H30	25	95	120																																							
R1	24	99	123																																							
R2	13	49	62																																							
R3	17	66	83																																							
R4	24	84	108																																							

3 総合評価

協働側面の評価	
よかったこと	・それぞれの強み、弱みを理解し合い、補い合って事業を実施することができた。(A)
改善が必要なこと	・それぞれに他の活動や生活がある中で、すべての事業に熱意をもって取り組むことは難しい。淡々と進めていた。(A)(市) ・相手の組織でのルール等について理解が進んでいない部分もあった。(市)
対策	・スクラップ＆ビルドの考え方を参考に、効果的であれば、一部の活動を次の世代や活動主体へ引き継ぐことも検討できると考えている。それにより、市内の環境活動がより活発に発展していくことにもつながる。(A)
事業効果の評価	
達成できたこと	・主催活動への参加を通じて参加者に行動変容を促すことができた。 ・主催活動「あるもんで交歓会」や「オープンカレッジ広場」について、活動場所周辺の地域住民への定着、環境意識の醸成を図ることができた。 ・市民がつかないできたネットワークと行政の安心感を活かして取り組むことで、主催活動のひとつ「13 歳からの環境教室」では企画段階から中高生、大学生と協働で実施するなど新しい流れをつくることができた。

- まちづくりに関する意識調査の「身近な自然や生き物を大切にしている市民の割合」については、平成 25 年度から高い割合で推移している状態である。自然や生き物を大切にするについて発信している活動は、21 世紀の森中央緑地にあるオープンカレッジの森で森の手入れや自然体験を行う「みんなでそだてるぼうけんの森」、自然の素材などを使って工作をする「エコ工作」、農業公園にいるヒメボタルの美しさを知り保全意識を醸成する「ヒメボタル観賞会」などがあり、子どもから大人まで全ての年代が楽しめる活動がそろっている。さらに、より多くの市民に向けて発信するため、あまがさき環境オープンカレッジの広報誌「あまがさきエコ通信」の表紙で、尼崎市内で観察された生き物の紹介を行っている。身近な生き物を市民が撮影した写真を交えて紹介することで、身の回りの自然や環境に目を向けるきっかけ作りに貢献している。



総評

- 市と団体それぞれの強みを生かし事業を行うことで、市民、企業、学校、行政など様々な団体との連携が進んだ。
- 複数の視点から物事をとらえ意見交換をすることができた。
- 市民目線から魅力的な活動を計画、実施することで、多くの新規参加者を獲得することができ、これまでより多くの市民に環境保全について広く啓発することができた。
- それぞれの役割分担をわかっていないことがあるなど多少のズレはみられるが、協議を通じて課題や起こったことを共有できており、より協働の取り組みが進んでいると感じる。